

令和7年度 徳島県 英語教育改善プラン

目標

質の高い言語活動を充実させることによって、児童の自己肯定感・達成感を向上させ、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることを楽しみながら、お互いの気持ち等を伝え合うことができる児童の育成を図る。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① R6全国学力・学習状況調査の結果によると、「英語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童は78.9%であり、全国平均を上回った。
- ② R5英語教育実施状況調査の結果によると、授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている割合に増加傾向が見られる。
(参考: R4:39.4%⇒R5:54.8%)
- ③ 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合に増加傾向が見られる。
(R5:24.1%⇒R6:26.3%)

未だ改善が必要な点

- ① R6全国学力・学習状況調査の結果によると、「英語の勉強は大切だと思う」と回答したのは92.2%と高い割合を占めているのに対し、「英語の勉強が好き」と回答したのは71.2%にとどまった。
- ② R5英語教育実施状況調査の結果によると、「話すこと」を評価するパフォーマンステストは100%実施されているが、学習到達目標の達成度が適切に把握されていない。

2. 要因分析

- ① 各種研修や学校訪問等において、授業の進め方や児童の興味・関心の引き出し方について周知したことが好結果につながったと考える。
- ② 各種研修や学校訪問等において、「言語活動を通した」指導を行う重要性について周知したことが好結果につながったと考える。
- ③ 教員採用審査の際の加点措置や第2次審査の模擬授業の教科を外国語（英語）にしたことが意識の高まりにつながり、「一定の英語力」を有する者の割合が増加したと考えられる。
- ① 児童が「伝えたい」という気持ちを持ち、学んだ英語を用いて「分かった」「伝わった」という達成感を味わうことができるような「本物のコミュニケーションの機会」を十分提供できていないことが要因だと考えられる。
- ② 研修の事前課題として提出されたパフォーマンステスト等を分析したところ、学習到達目標の達成状況の把握につながるパフォーマンステストの充実が十分図られていないこと、「指導と評価の一体化」について、中間評価を行わず、指導後のまとめ段階で評価を行っていることが要因だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「徳島県英語教育推進計画COMPASS」の徹底

- ① 教師の授業力向上
 - ・今年度より、教師の英語運用能力を向上させるための理論や実践方法を学ぶための研修会を実施する。
 - ・今年度より、「実践的オンライン研修」受講者を対象に、外部有識者をアドバイザーに招聘したフォローアップ研修を実施する。
- ② 言語活動の充実
 - ・各種研修や学校訪問等において、「使いながら学ぶ、学びながら使う」という指導観の転換を図り、質の高い言語活動を充実させる。
- ③ 教師の英語力向上
 - ・教員採用審査において中学校教諭「英語」に出願する者で、小学校教諭の免許状を有する者は小学校教諭を併願することができる。また、小学校教諭に出願する者で、文部科学省が示す「一定の英語力」を有する者には15点加点する。また、第2次審査の模擬授業の教科を外国語（英語）とする。
- ① 英語学習における自己肯定感・達成感の向上
 - ・各種研修や学校訪問等において、好事例をもとに、単元構想時における「目的意識をもたせるための本物の場面設定」「相手のニーズに応えるためのコミュニケーションの設定」の重要性を周知する。
 - ・昨年度から実施している「小中高連携を踏まえた英語教育リーダー」育成事業における研修成果を県全体で共有し、他校種における授業実践への理解を深めることで学年間の学びをつなげる意識を高める。
- ② パフォーマンステストの適切な実施
 - ・各種研修や学校訪問等において、中間指導の充実や児童へのフィードバックの在り方、振り返りシートの活用等についても、丁寧な指導を行う。
 - ・教師の評価観を変えるために、ウェブサイト「指導と評価の一体化」サイトに掲載した評価問題の活用方法について周知するとともに、活用を促進する。
(参考URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private-/>)

令和7年度 徳島県 英語教育改善プラン

目標

目標と指導と評価の一体化を徹底し、言語活動の充実を中心とした授業改善を行う。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：53.2%⇒R7：58%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①R6全国学力・学習状況調査の生徒質問調査の結果から、話すことの言語活動の実施に改善が見られる。

<話すこと〔やり取り〕>

(R5:58.0%⇒R6:65.2%)

<話すこと〔発表〕>

(R5:69.6%⇒R6:75.7%)

②学習者用デジタル教科書の活用について、一定の改善が見られる。

(R5:87.3%⇒R6:97.4%)

未だ改善が必要な点

①国が求める英語力を有する生徒の割合CEFR A1
(R5:55.4%⇒R6:53.2%)

②R5全国学力・学習状況調査正答率 ※()は全国平均
 領域 聞くこと 57.2(58.4)
 読むこと 49.4(51.2)
 書くこと 25.3(23.4)
 観点 知・技 52.0(51.5)
 思・判・表 37.3(38.8)

2. 要因分析

①

○徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底。

○一人一台端末を活用した「話すこと」の授業の実践の共有。

○イングリッシュキャンプの実施により、生徒が学んだ英語を積極的に使う機会を提供。

②GIGAスクール教科等研究集会での参加者による学習者用デジタル教科書の活用事例を共有。

①R6全国学力・学習状況調査における生徒質問調査の結果から、各領域において、「言語活動を実施した」と回答した割合が全国平均を下回っており、十分に言語活動が実施できていないことが原因の一つと考えられる。

①②各観点について理解が不十分な状況があり、指導と評価の一体化が図られていない状況が見られることもある。教員対象のアンケートでは、パフォーマンステストの実施について十分に理解できていないという意見もあり、原因の一つと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

①②

○令和6年度「小中高連携を踏まえた英語教育リーダー」育成事業における研究成果を県内で共有し、他校種における授業実践への理解を深め、校種間における学びをつなげることを意識した授業づくりを推進する。

○「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」への積極的な参加を促し、指導力の向上に向けて支援を行う。

○イングリッシュキャンプを継続して実施し、参加者の英語力の向上を目指すとともに、市町村教育委員会の担当者へ企画・運営方法などについて伝える機会を提供し、より多くの自治体が自走できるように支援する。

②言語活動の充実に向けて、学習者用デジタル教科書の活用事例の共有を継続するとともに、学校訪問等においても活用の推進に向けて指導助言を行う。

①

○英語能力向上事業として英検IBAを実施し、生徒の学習状況を把握し、指導や評価の改善につなげるとともに、客観的なデータに基づき、生徒の英語力を見取る際の参考として活用する。

○各研修会や研究会、学校訪問等の様々な機会を通して、国や県が提供している授業実践等の共有を行い、言語活動の充実を図る。

②

○英語4技能育成事業研究会を通して、各観点（特に思考・判断・表現）についての理解を深め、授業改善へつなげていく。また、指導と評価の一体化を図るために、パフォーマンステストの具体的な実施方法についての演習を行う。

○県が作成した「指導と評価の一体化」サイトの活用を促進するとともに、思考・判断・表現を中心とした評価問題を各学校で自由に活用できるように配付する。
 （参考URL:<https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private->）

令和7年度 徳島県 英語教育改善プラン

目標と指導と評価の一体化を促進し、言語活動のさらなる充実を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 56.2%、B1以上 26.4% ⇒ R7 : A2以上 58%、B1以上 28%)

目標

☒言語活動 ☒指導と評価の一体化 ☒教師の英語力・指導力 ☒校種間連携 ☐ALTの参画 ☒ICTの活用 ☒AIの活用 ☐その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力
・CEFR A2相当以上 (R5: 55.1% ⇒ R6: 56.2%)
・CEFR B1相当以上 (R5: 24.3% ⇒ R6: 26.4%)
- ②授業における英語担当教員の英語使用状況 (R5: 55.2% ⇒ R6: 55.8%)
- ③CEFR C1レベル相当以上の英語力を有する英語担当教師の割合 (R5: 16.4% ⇒ R6: 19.5%)
- ①授業における生徒の英語による言語活動の割合 (R5: 67.7% ⇒ R6: 65.0%)
- ②パフォーマンステスト(スピーキング及びライティング)の実施状況について改善が進んだものの、課題が見られる。 (R5: 59.4% ⇒ R6: 57.9%)
- ③CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教師の割合 (R5: 94.3% ⇒ R6: 94.0%)

2. 要因分析

- ①②について、(1)深い学びを実現する授業実践、(2)充実した言語活動を伴う授業実践、などをテーマとして、マイクロティーチング等を取り入れた全校悉皆の授業研究会を実施し、目標・指導・評価の一体化が改善した。
- ②③について、英語科主任会や教育課程研究集会、学校訪問で、英語教育実施状況調査における本県の状況を説明し、授業改善および教師の英語力の重要性を確認した。また英語担当教師の英語力をブラッシュアップするための研究会を実施した。
- ①について、「論理・表現」の授業における生徒の英語による言語活動の割合が低いことが要因の一つであると考えられる。
- ②について、「論理・表現」のパフォーマンステストでは、「話すこと」に比べて「書くこと」の割合が相対的に高い状況が見られる。
- ③について、研究会後に実施する英語担当教師のアンケートから、多忙さにより、自己研鑽の機会の確保が難しい状況が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

- ①②③英語指導力向上を目指した研修・研究会を継続して実施。
目標と指導と評価の一体化を促進し、言語活動がさらに充実した授業実践を推進するため、「授業づくりの工夫と実践のための研究会」を引き続き実施する。
- ①②
○「論理・表現」の授業改善を目的として、実践事例から学び、単元目標の達成に向けた効果的な言語活動のあり方について理解を深めるとともに、マイクロティーチング等を取り入れ、単元指導計画や授業展開を具体的に検討する、実践的な研究会を実施する。また学校訪問等では「論理・表現」の授業を取り上げ、生徒の言語活動やパフォーマンステストについて指導助言を行う。
○「書くこと」の指導と評価について実践事例から学び、生成AIの活用について理解を深める研究会を実施する。
○生成AIを活用した個別最適な学びと、協働した学びの往還を通して、生徒の英語力の向上、グローバルに活躍することが期待される層の拡充を目指す研究会を実施する。
○令和6年度「小中高連携を踏まえた英語教育リーダー」育成事業における研究成果を県内で共有し、他校種における授業実践への理解を深める。
- ③
○「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」をはじめ、英語担当教師が英語力をブラッシュアップするための機会や情報提供の場を設ける。
○外国語学会や徳島県英語指導研究会と連携し、英語担当教師が日頃の授業実践や悩みを相談・共有するとともに、各教員が英語力を高められる仲間づくりやネットワークづくりを促進する。
(参考URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private->)

目標達成状況一覧表

徳島県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		59	55.1	57	56.2	58		60		61	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		22	24.3	26	26.4	28		30		31	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		75	67.7	72	65	72		74		76	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)		65	59.4	60	57.9	62		64		66	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	86.8	90		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	85	94.7	96		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		94	94.3	95	94	95		96		97	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		78	55.2	56	55.8	58		60		62	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		54	55.4	56	53.2	58		60		61	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		93	88.8	93		94		95		98	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)		100	81.9	85		87		88		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		66	63.4	66	62.7	66		67		68	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		94	75.9	85		86		88		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	90.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	98.8	100		100		100		100	